

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
な か ま 編 集 係

〒285-0025  
佐倉市 錦木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

2 ページ ふるさとのお正月 ..... 服部 富士子  
3 ページ 週末は楽し ..... 鈴木 伶子

雷電と佐倉の関わり ..... 小林 董  
市民カレッジ応援合戦プロデュース始末記 ..... 北村 耕三

## 新春によせて

市長 渡貫 博孝

『なかま』をご愛読のみなさま、新年あけましておめでとございます。

希望にあふれる輝かしい平成十九年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

『なかま』は昨年十月号で創刊三十周年を迎えました。

『なかま』の編集作業は、市民カレッジ生とそのOBからなる編集委員と中央公民館が連携し協力して取り組んでいます。三十年前から市民協働の姿がここにあるのです。素晴らしいことだと思います。

「市民協働」とは、よりよい地域づくりのために、市民・NPO・ボランティア・企業・事業者・町内会や自治会を含む自治組織等と行政が、対等の立場で連携してまちづくりを行うていくことをいいます。市民協働のまちづくりが求められるのは、大きく分けて

三点の要因が挙げられます。

まず一点めに地方分権の推進に伴い、地域独自の課題に対する地方自治体及び市民等の役割が増大していることです。

二点めは地域の課題が多様化・複合化するに伴い、行政だけでは解決できない問題が顕著化していることです。

そして三点めは市民の価値観や生活様式の多様化に伴い、市民自らが地域課題の解決に向けた主体的活動を行うよう意識が変化していることです。

さて、このような背景から、平成十九年一月一日「佐倉市市民協働の推進に関する条例」が施行されます。この条例では、まちづくりの主体となるものの役割及び責任を明らかにするとともに、市民協働を推進するための基本的な事項

を定めています。

この条例施行によって、市民協働型の自治運営がより推進されるよう強く願っています。

市民、企業をはじめ非営利活動団体やボランティア団体など、多くの方々にもまちづくりに参加していただきたいと考えています。そして市民の知恵と力を集め、相互に連携、協力・協調していただくことで、市民のだれもが心豊かで生き生きと暮らせるまちづくりの実現を目指していきたいと思えます。皆さまご協力の程、よろしく願います。年の初めにあたり、皆さまのご健勝をお祈り申しあげ、新年のご挨拶といたします。



## ふるさとの

### お正月

私のふるさと小値賀島は、長崎県五島列島の北部に位置し、大小の島からなり、西海国立公園のなかでも特異な火山群島である。上京して歳を重ねた今、ふるさとで過ごした正月がなつかしい。

元日：子供たちは裏庭の井戸から、釣瓶でバケツ一杯の水を汲んできます。年始めの朝に顔を洗う若水です。父が最初に若水を使い、母、子供。父は「若こうなつたバイ」と言い嬉しそうに紋付袴に着替え、家族が揃うのを待っています。用意された三段重ね朱塗りの盃にお屠蘇をそそぎ「おめでとう」で祝膳が始まり具雑煮が並びます。雑煮の中身は野菜、寒鰯の切り身、色蒲鉾、卵焼それに大晦日に家族でついた小丸餅が二つ入っています。なまずにはどの家も晒鯨（鯨を薄く切つて熱湯でゆがいたもの）を入れ

ます。刺身は寒鰯一尾を台所の天井から太縄でぶらさげ、各自好きな部分を好きなだけ食べますが、父の部分は腹身ときまつています。海からの恵みは豊かで、鮑や海胆など膳を飾ります。

私はお年玉袋を知りませんでした。友だちに聞きましたら、元日の朝目覚めると枕元に新しい足袋が置いてあったヨと。私の枕元にも新しい下駄が置いてありました。これがお年玉でしょう。

七草粥：六日の夜、台所に大きい俵板と包丁二本置いて寝ます。朝暗い時起きた私は、豆しぼりの鉢巻を締め俵板の上に七草を並べ二本の包丁を左右の手に持ち、トントンたたきます。「七種なずな唐土の鳥が日本の土地に渡らぬ先に七種揃えてお祝い申そうお祝い申そう」。福入れ申そう一年の無病息災を願います。  
( 鍋木町 服部 富士子 )

## 雷電と佐倉の関わり

雷電為右衛門といえ、江戸時代後期に活躍した天下無双の強豪力士で小説や講談の世界では怪物というイメージが強い。臼井駅の北口に雷電の墓、顕彰碑、雷電公園といった史跡案内が出ている。私の生まれ故郷島根県松江市にも雲州松平藩の菩提寺に雷電の墓がある。この雷電の足跡や佐倉との関わりを史実に基づいて学術的に解明する機会を、平成十八年度の佐倉市国際文化大学でゼミ研究として取り上げることができた。

雷電は明和四年（一七六七年）信州大石村（現在東御市）で生まれ江戸勧進相撲では十七年間大関として君臨し生涯一回しか負けなかった相撲史上最強の力士で、松江藩松平不昧公のお抱え力士であった。強いだけでなく学識もあり文武両道に優れた超一流の人物であったという。現役時代と引退後の雲州藩相撲頭取時代

の三十一年間にわたって雷電日記を書き残している。

雷電の妻八重（おはん）は佐倉の出身で臼井宿の甘酒茶屋の看板娘であった。雷電は引退後赤坂報土寺梵鐘事件で幕府からお仕置を受け、また主君不昧公、実母の死を契機に晩年は臼井に移り住んで余生を送ったといわれ、臼井の地は雷電にとっては第二の故郷ともいえる。

一五三回目の命日に当る昭和五十三年二月十一日に第一回佐倉雷電祭が臼井妙覚寺で催され、以来毎年行われて、この度で三〇回目の節目を迎える。雷電の縁故により東御市と佐倉市は友好都市の関係にあり、松江松平家と佐倉堀田家は姻戚関係にある。

史実や史跡は地域の文化資源であり、地元でも意外と知られていない雷電遺産を再評価することで町おこしや関係地域との交流にもつながるのではないか。

( 染井野 小林 董 )

## 週末は楽し

「なに、食べたい」

「ハンバーグがいいな」

「じゃあ、一緒に作るうか」

「手を洗ってきて」

週末は、孫たちと共に三世代が集合して、平均年齢が一挙に若返る我家である。

アニメ好き、ゲーム好きの孫娘たち。あまりにも長時間続くときは、つい怒鳴り声になつてしまふ私であるが、夕食の用意の一品は、なるべく孫たちと一緒におしゃべりしながら調理するように心がけている。

その中の一つ、煮込みハンバーグが好物で、苦手なピーマン・人参・しいたけ・玉ねぎ等も、みじん切りにすると、食欲は旺盛である。

このみじん切りは、六年生の孫が担当、最近では包丁さばきもリズミカルになり、「上手ね。助かるわ」と言うのと、満面の笑顔。

二年生の孫は、卵を割ったり、パン粉を入れ、材料をこねたり、うさぎやポケモン等の形作りを楽しみ、「かつこいいね。上手になったね。ママも喜ぶよ」と言うと、ますます大張り切り、「いい匂いがしてきたね」と、鼻をくんくん。出来あがるのを待ち切れず、何度も鍋をのぞき込み、「出来た。おいしい」と、一番の試食者、一段と食欲も旺盛である。

その他、ぎょうざ作り、誕生祝いにと五重塔のカラフルホットケーキ作り等、孫たちだけで計画し、「材料費だけは、お願いね」と一緒にスーパーへ買い出しに行く、ジジ・ババである。

このように、マゴマゴしている週末は、我家にとって、脳を活性化するにも認知症防止にも大いに役立っており、幸せな日々でもある。

(宮前 鈴木 伶子)

## 市民カレッジ応援合戦 プロデュース始末記

一、馬鹿は死ななきや

直らない？

市民カレッジのスポーツフェスティバルという名の運動会で我が二年一組の応援合戦のプロデュースに手を挙げたのは、虎キチとして甲子園球場のあの光景を佐倉の体育館に再現してみたいとの想いからである。阪神の応援ツール（六甲嵐、ジェット風船、派手な応援旗）を一組用にアレンジして「入場行進 トリム運動 応援歌斉唱 風船飛ばし」という演技にクラス全員が挑戦することにした。しかし、大きなミスがあつたんですわ。ここは大阪やない、千葉の田舎で長嶋はんの故郷、六甲嵐 なんかに聞いたこともないおとんとおかんばっかりや。プロデュースのワイが狙った甲子園を包み込むあのコテコテの大阪の精神風土が再現できるわけがないことに

気がついたんですわ。この思い違いは、どうということのないことのようにあるが、心理的には最後まで演技者との間に蟠りとなつていたように思う。「馬鹿は云々」は正に箴言である。

二、練習は

嘘をつかない？

セ・リーグの覇者中日の落合監督のお言葉である。我方も演技の完成度の向上を求めて夜に日を継ぐ練習をして当日を迎えた。栄冠は君に輝く の勇壮な音楽に乗って四十五名の堂々たる行進・・・嗚呼、横列が凸凹、停止のタイミングがバラバラ。そして最後の応援歌斉唱、嗚呼、ここでもカラオケが鳴らない、OH NO! 落合さん、何事にも例外はあるんですよネ。演者の皆様に神のご加護を。

(中志津 北村 耕三)



# 1月の黒板

## 佐倉市民カレッジ公開講演会のお知らせ

平成19年1月9日(火) 午後1時10分~3時

### 「道祖神信仰の源流を求めて」

国立歴史民俗博物館館長 平川 南 氏

[費用] 無料

[定員] 先着200名

[申し込み・問い合わせ] 中央公民館 TEL 485-1801

## 『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

[原稿規定] 字数 650字(13字×50行)以内(中央公民館に専用原稿用紙があります)。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

内容 随筆...日常の出来事など自由にお書きください。

問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

URL <http://www.city.sakura.chiba.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

## わくろ道

機会があつて、地域の植栽の調査に同行した。各戸毎に樹種、土質、日当たりなど、生育条件は千差万別で、一律に評価するのは難しいが、それでも家毎の樹木の勢いがどうしてこんなに違うのだろうか、と、不思議なくらいに差の出ているケースが多々ある。専門家の話では、適当な水遣り、施肥、除草、剪定をや

るやらないの差が出るとのこと。やはり手を掛ければ環境に適した生育をするようだ。翻つて見るに、最近の青少年の問題行動には、成育にどれくらい手が掛けられたかに原因があるのではなからうか。人間とてほったらかしに育てるよりも、それなりに手を掛ければそれだけの結果がでるのではなからうか。ただ植物でも過ぎたるは及ばずとのこと。すべからく程ほどに事を進めたいものだ。

## あとき



明けまして

おめでとうございます。

市長の渡貫様より玉稿を賜わり新年号に相応しい紙面になりました。お忙しい中『なかま』のためにご執筆下さり有難く厚く御礼申し上げます。

服部様、読者の皆様も幼い頃のふるさとのお正月を思い出されていることでしょう。

小林様、雷電の二月のせし

モニターをひかえて時宜を得た掲載になったのではないかと思っています。

鈴木様、週末より長いお正月休みをお孫さん達と存分に楽しく過ごされたことでしょう。

虎キチの北村様、応援ご苦労さまでした。今年の阪神には井川選手はいませんが、昨シーズン終了間際のあの迫力を期待しましょう。

今年も引き続きまして『なかま』をご愛読、ご支援下さるようお願い申し上げます。

(池田)